



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

2020
July
No.185

士会だより



COVID-19特集

◆◆◆◆◆ **Index** ◆◆◆◆◆

- ・ 巻頭言 2
- ・ COVID-19特集 3・4・5・6
- ・ 日本医療マネジメント学会 第14回兵庫支部 学術集会 参加報告 7
- ・ 各部だより 8
- ・ INFORMATION 8
- ・ 兵庫県で活躍する理学療法士～数珠繋ぎ～ 10

◆◆◆◆◆



ポストコロナの「新しい生活様式」と理学療法

会長 岩井 信彦(神戸学院大学)

1年前、士会だよりの巻頭言に「令和が戦争はもちろんのこと災害やテロのない日本国民にとって幸多い時代となることを願う」と書いた。しかしその願いは早くも打ち破られた。中国武漢から発生したCOVID-19が瞬く間に全世界に広がり、わが国でも4月に緊急事態宣言が発令された。兵庫県は5月21日対象区域の指定から解除されたものの、依然として感染の恐怖から回避できないでいる。特に理学療法士の業務はいわゆる“3密”の“密接”にあたり、現場では感染の危険性と隣り合わせの業務を余儀なくされている。このような厳しい状況の中、日々の業務に誠心誠意取り組んでいる会員の皆様に心から敬意を表したい。

皆様には、本年9月末まで本会主催の事業の中止または延期をお伝えしている。しかしZoom等のWEB会議アプリを利用し9月頃から研修事業を再開したい。7月を目途に案内をさせていただく予定である。

さて、ポストコロナが取りざたされている。「新しい生活様式」として人との距離を保つ、対面は避ける、一人または少人数で空いた時間帯での買い物、横並びでの食事などが推奨されている。これらの生活様式はADLを向上させ社会参加につなげていくことを主眼とするリハビリテーションにとっては何れも“真逆”の生活様式である。この「新しい生活様式」は健常者にとってこそ一時的な回避行動であり、コロナ禍が収まるとすぐ元の生活に戻ることができる。しかし、社会活動を制限された障害者や虚弱高齢者にとってはどうだろう。いざコロナ禍が収まって外に出たくとも“ステイホーム”状態を余儀なくされてしまっているのではないだろうか。命は守れたが、生活が…では、あまりにも悲しい。

理学療法士の業務は密接業務なので、感染予防対策を徹底した業務が求められる。また、理学療法士の業務は密接業務だけではなく、対象者・家族の気持ちに寄り添い適切なアドバイスを行う「相談・指導」も重要な業務である。対象者のやりたい、行きたい、したい、そんな想いを傾聴し、助言や実行可能な解決方法を提案していくことはポストコロナの「新しい生活様式」でも充分対応できる。この職能に磨きをかけ、コロナ禍に立ち向かうことも、今の私たち理学療法士に求められているのではないか。

令和2年度上半期士会活動は停滞を余儀なくされたが、下半期はオンラインやオンデマンド方式で研修活動を再開できるものと思われる。会員の皆様におかれましては、本年度も士会活動にご理解とご尽力頂きますよう宜しくお願いしたい。

会長 行動録

2019年度

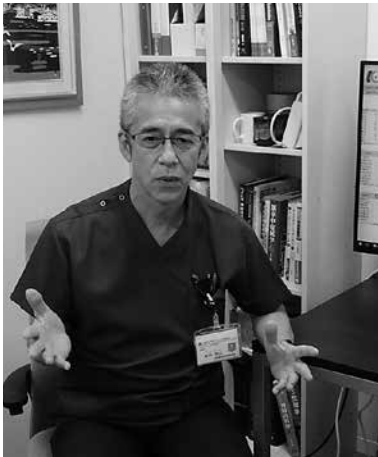
- 2/4 兵庫県リハ3士会協議会運営委員会
(県立総合リハビリテーションセンター)
- 2/14 県PT士会理事会(士会事務所)
- 2/16 日本医療マネジメント学会兵庫支部第14回学術集会
(神戸国際会館)
- 2/18 職能部・連盟合同部会(県士会事務所)
- 2/20 兵庫県リハ3士会協議会あり方検討会(兵庫県民会館)
- 2/21 兵庫県リハケア研究大会幹事会(兵庫県民会館)
- // 県健康局健康増進課、障害福祉局ユニバーサル推進課訪問
(県庁)
- 2/25 兵庫県PT養成校連絡会(三ノ宮センタープラザ西館)
- 3/13 県PT士会理事会(士会事務所)

2020年度

- 4/17 県PT士会理事会(士会事務所・WEB会議)
- 4/19 臨時近畿ブロック士会長・事務局長・学術局長会議(WEB会議)
- 4/20 県PT士会緊急理事会(士会事務所・WEB会議)
- 5/4 県PT士会緊急理事会(士会事務所・WEB会議)
- 5/15 県PT士会理事会(士会事務所・WEB会議)
- 5/24 臨時近畿ブロック士会長・事務局長(WEB会議)
- 6/3 兵庫県リハ3士会協議会第1回幹事会(WEB会議)
- 6/6 日本PT協会定時総会
(TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター・WEB会議)

当時の対応と今後に備えて 理学療法士ができることは

神戸市立医療センター中央市民病院 COVID-19取材



病院機能としては3次救急の役割も担い地域医療の最後の砦として24時間断らない救急医療を提供しています。また、第一種感染指定病院として6月までに100症例近いCOVID-19(以下COVIDと略す)患者の受け入れを行い、治療を行ってきました。今回、リハビリテーションの立場から大規模な院内感染が起きたときの状況、今後の備えや理学療法士としてできることを取材しました。

リハビリテーション技術部技師長
本田 明広 氏

○当時の状況と対応についていかがでしたか？

▶受け入れ初期

目の前で廃用が進んでいくが、リハ介入できない焦燥感

3月初頭からCOVID患者の入院が始まり、4月上旬までは緩やかな受け入れ状況でした。防護具の不足は受け入れ初期より問題となっていましたし、「リハビリは感染を広げる恐れがあるから…」と感染伝播のリスクを回避するためにもCOVID患者に対するリハビリテーションの介入は見送られていました。しかし一方では、患者の呼吸機能の悪化、遷延する合併症、廃用の進行を目の当たりにし「なんとかしないと」と、もどかしさを感じていました。そのころICUの医師から「リハビリをしないと大変なことになる、どうにかならないか」と相談があり、それをきっかけにICTと病院幹部と交渉のうえ『COVIDリハチーム』を設立し、十分な感染対策への教育と訓練を受けたうえで理学療法が開始されました。私も介入するつもりでしたが止められ、集中治療経験の豊富なPT4名を選出しました。2人ずつのペアとなって、重度の人工呼吸器管理の患者だけを対象に、人工呼吸器からの早期離脱と肺合併症の予防と改善を目的とした介入に限定しました。



▶緊迫期

次から次に対策をとっても感染が増えていくという怖さ

COVIDリハチームが成果を上げ始めた頃、市中感染が拡大し、入院患者も急激に増加しました。ちょうどその頃の4月9日に院内感染が確認されました。当時ウイルスの正体に不明な点も多く的確な対策がとれないなか、濃厚接触による健康観察職員が日に日に増加して、院内で最大242名、リハ職員も78人中27名が自宅待機となりました。自宅待機となったスタッフは情報が少なく、自身がいつ発症するのか、また自身が患者さんに感染させてしまったのではないかとこの恐怖・不安からくる精神



的ストレスは計り知れないものがあったと聞いています。一方COVID以外の患者で感染疑いとなった患者に対してもリハビリを提供することができず、廃用を招くという状況でした。オペはしない、3次救急は受け入れられない、2次救急も一部のみ、新規の外来は中断という状態になり5月10日頃まで病院機能は大幅にダウンしました。現場では病院のどこで感染しているかわからない、次から次へと感染が伝搬する状況の中での対応は、「怖い」「またか」というのが正直な気持ちでした。そのような中でも、職員が少しでも安全に安心して介入できるような対策の一つとして、合計70~80人もの発熱患者の熱源検索を一つずつ管理者が毎日実施し、職員の安心につなげるようにしました。そのようにしてCOVID患者のリハもCOVID以外の患者のリハも「使命感を持ってやろう」と励ましながら行っていました。その後、感染流行期には全ての患者に

陽性の可能性があることを前提に①COVID確定、②COVID疑い、③COVIDを否定できない3群に分類、病棟も完全にゾーニングし、それぞれに準じた感染対策をとることで、濃厚接触を防ぐことが可能となり、安心して全入院患者にリハ介入ができるようになりました。

▶安定期

病院機能の段階的な復旧

4月後半から5月にかけて感染科医師の主導のもと、徐々に海外のデータからウイルスの正体も掴め始め、発症前に感染しやすいことも判明、日々更新される情報の変化に対応しながら感染対策とリハビリ介入の両方を前向きに進めていきました。5月10日以降、病院機能も段階的に復旧し、今ではすべてのCOVID患者もそうでない患者も機能を向上して元の生活に戻そうとみんな頑張ってくれています。現在はCOVIDチームも増え、365日のリハ介入体制ができていますが、後方支援病院の受け入れがなかなか進まずに退院できない問題が新たに浮上しています。

○いちばん大変だったことは？

大変だったとかはないですけど、日々刻々と変化する現場の管理が精一杯で、自宅待機者へのメンタルヘルスマでは手が回せない状況だったことが残念です。更に「こういうことが分かってきたから」という十分な裏付けの説明ができないまま「こうしてください」と指示を出すことが優先されたため職員の不安を十分にとることはできなかったのではと考えています。患者に対して積極的なリハビリができない焦燥感があったのですが、十分わかっていない現場にスタッフを立たせないといけない管理者としてのストレスもありました。少しでも油

大学院 医療科学研究科

職業実践力育成プログラム
Strash up Program for professional

研・研 能力
ステップアッププログラム

リハビリテーション科学
実践研究コース

本プログラムは、職業に必要な能力を高めることを目的として、社会人や企業に働きながら学ぶという、在学中にプロとして活躍できる人材を育成し、奨励しています。

西日本を代表する医療総合大学へ
Leading Health Science Innovation

学校法人 兵庫医科大学
兵庫医療大学

〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6
■大学に関するお問い合わせ ☎078-304-3024

JOU 100th

女性だから、できるケアがある。
女子大学で、女性のための理学療法を学び、リーダーシップがとれる理学療法士へ。

甲南女子大学
KUNITANI WOMEN'S UNIVERSITY

看護リハビリテーション学部
理学療法学科

〒656-0001 神戸市東灘区美芝町6-2-25 <http://www.kunitani.ac.jp>

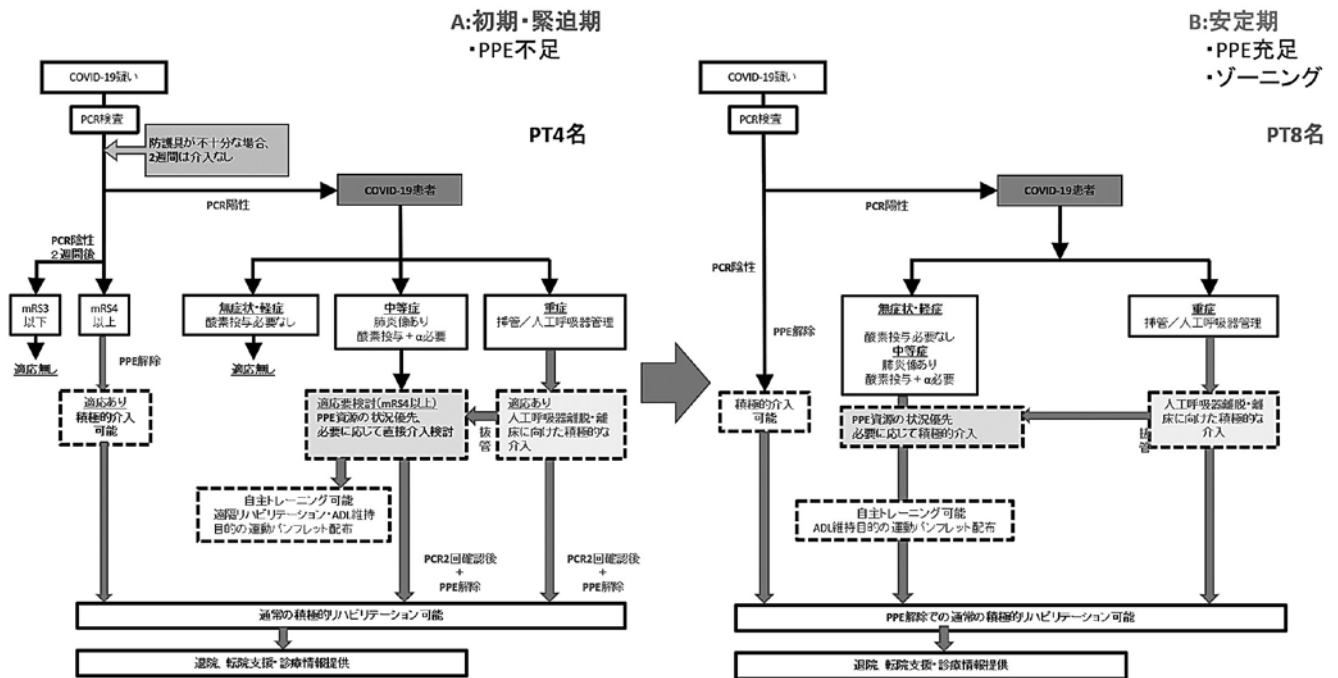
断した際にしたたかに入り込んでくるこのウイルスの怖さが常にあったからです。そんななかで職員はみんな逃げずに、とてもよくやってくれたと感謝しています。

○セラピストの具体的な取り組み、介入時の場面は？

感染しない+感染させない

まずは職員の基本的な感染対策の徹底(会話時はマスク必須、適切な距離をとる。対面で食事はしない、喋らない。手洗い、各自持参のアルコールで5つのタイミングの順守。)を繰り返し伝えました。院内の役割として各病棟で感染予防のチェッカー役を引き受け各職種のチェックをすることで、自分た

ちの感染対策の意識も高められました。感染専門の看護師に防護服の脱着などの指導を受けて、COVID患者への介入時は二人一組で防護服の脱着を行い、リハ時も行動をビデオに撮り後で無意識に接触しているところなどないかチームで何度も検証を重ねました。これらの経験を通して、感染対策は知識だけではなく、確実な実践が伴わないと意味がないことを再確認しました。また、フローチャートを作成し、完全なゾーニングの下で適切な防護服を装着することで万が一、COVID患者が発生したとしても「濃厚接触」に該当せず、自宅待機での健康観察は不要となりました。結果として今までにリハスタッフで臨床での感染者は一人も出ずに済んでいます。



COVID-19患者および疑い患者に対するリハの適応基準とフローチャート

10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む

総合リハビリテーション学部

- 理学療法学科**
 - 理学療法士国家試験受験資格
 - 健康運動実践指導者認定試験受験資格*
- 作業療法学科**
 - 作業療法士国家試験受験資格
- 社会リハビリテーション学科**
 - 社会福祉士国家試験受験資格*
 - 精神保健福祉士国家試験受験資格*
- 総合リハビリテーション学研究科**
 - (大学院) 修士課程・博士後期課程

* 指定科目の単位修得者が取得できる資格

神戸学院大学 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 有瀬キャンパス TEL (078) 974-1551 (代表)

医療で社会をつなぐ
「医療社会人」を目指す

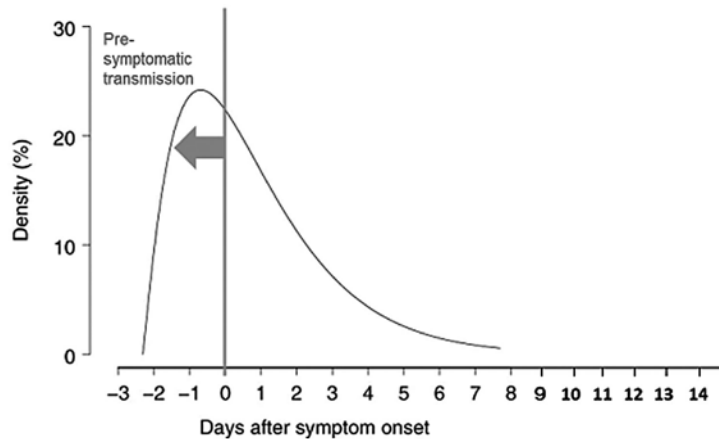
学校法人 平成医療学園
宝塚医療大学 0120-00-1239
〒666-0162 兵庫県宝塚市花屋敷緑が丘1
宝塚医療大 検索
http://www.tumh.ac.jp/

理学療法学科 ■ 柔道整復学科 ■ 鍼灸学科

○今後の対策について

間違った怖がり方ではなく、正しい怖がり方を！

SNSやマスクミだけでは、情報が偏る危険があると思います。信頼できる情報(当院では、日本集中治療医学会や日本理学療法士学会等のアップデート、ICTや感染科医からのエビデンスの情報)を随時収集・参考にして、各施設で落とし込んでい



感染SARS-CoV-2の感染伝搬のイメージ図

くことが重要だと思います。再陽性者からは感染のリスクが少ないことが分かってきました。発症時や発症前の感染伝搬力は強いけれど発症以降5-10日間で感染力は急激に弱まる可能性が示されてきています。発症して10~14日以降は陰転化して安全となるのが基準となってきました。(6月12日に厚労省の退院基準が14日から10日に短縮されている。)

○振り返って、今後の課題や第2波に向けて取り組むべきことは？

地域連携と感染対策教育

現在COVID患者はPCR陰性にも関わらず後方支援病院の受け入れが進まずほとんど転院していないのが現状です。本当は安全に地域に帰ることができる患者も帰れず、もしこのまま第2波がくれば更にその状況は悪化していくのではと心配です。急性期側は患者さんが陰転化してからの期間、症状の有無等の感染状態の情報を正確に伝えられる事と、受け入れ側は職員や入院患者さんが安心して受け入れられる環境作りが必要ではないでしょうか。そのためには防護具の供給と、正しい情報の共有が不可欠だと思います。また、今まで当院リハ職の手指消毒の実際は68%でした。それがこの状況下では96%になりました。理解はしていても意識が低かったのです。患者と密に関わる職種なので、感染リスク、感染させるリスクが非常に高いことを再度認識して、医療者としての感染の意識を

高め、基本的なことを徹底して行えるようにする実践的な教育が今必要だと考えます。

取材を終えて、「物資や応援の手紙はすごく励みになった」、「周りの印象としては“すごく大変な現場で働いている”という印象だったと思うが、悲壮感はなく使命感の方が勝っていた」といいます。できないと避けるのではなくどうやったらできるかを考え、常によりよい状態に向かって困難を乗り越えていく。普段、理学療法を行なっていく上でも重要な姿勢がここにはありました。

*関連情報がPTジャーナル7月号にも掲載される予定です。ぜひご覧ください!

広報部

前川 健一郎(神戸リハビリテーション病院)

筒井 章悟(兵庫しあわせ訪問看護ステーション)

濱田 大介(東灘しあわせ訪問看護ステーションくるる)



日本医療マネジメント学会 第14回兵庫支部 学術集会 参加報告

去る2月16日(日)神戸国際会議場で表記学会が開催された。良質な医療提供体制の確立を目指し毎年この時期に開催されるこの学会は、基調講演、教育講演、特別講演と県下の各施設からの演題で構成される。今年のメインテーマは「地域で必要とされる病院とは～地域包括ケアシステムを見据えた医療マネジメント～」で集会長は宝塚市民病院の明石章則先生であった。教育講演「兵庫県における地域医療構想の推進について」講師 味木和喜子氏(兵庫県健康福祉部健康局長)と、特別講演



「多職種が学びあう組織と地域をつくる～学習する組織の考え方を活かして～」講師 平林 慶史氏(有限会社ノトコード代表取締役)が非常に興味深く示唆に富んでいた。一般演題は「地域医療連携」「医療の質」「医療安全」「病院運営」「感染管理」「人材確保・育成」「チーム医療」などのテーマに138演題のエントリーがあり、各会場で熱心な討論が展開された。次年度は2021年2月14日(日)、赤穂市民病院の藤井隆院長が集会長で、会場は関西福祉大学である。

日本医療マネジメント学会兵庫支部は支部長、世話人、代議員、顧問、監事等の役員で構成され、支部長は加古川市民病院の大西祥男院長である。私も県下理学療法士の代表として世話人の末席に加えて頂いている。ちなみに兵庫支部の親組織日本医療マネジメント学会の学術総会(学会長;大西祥男氏)が2022年7月8、9日、この兵庫の地で開催される予定である。職場で管理をされている先生方はこの機会を利用し、日頃の成果をまとめられ、演題をエントリーされてはどうか。

会長 岩井 信彦(神戸学院大学)

～精選の教員陣による人間教育～
リハビリテーション学部
理学療法学科

神戸国際大学 リハビリテーション学部/経済学部
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6
TEL.078-845-3111(代表) FAX.078-845-3200

人にやさしい人になる

PHYSICAL THERAPY 理学療法学科 • OCCUPATIONAL THERAPY 作業療法学科 • SPEECH THERAPY 言語聴覚学科 •

KRC 関西総合リハビリテーション専門学校

E-mail krc@junshin.or.jp 〒656-2132 兵庫県淡路市志筑新島 7 番 4
http://www.krc-net.jp/ TEL.0799-60-3600 FAX.0799-60-3610

創立 **46** 年

病院を母体とする医療の総合教育校

理学療法士科 作業療法士科
診療放射線科 臨床工学科
視能訓練士科 言語聴覚士科
臨床工学専攻科

Since 1973 医療法人社団 慈恵会
KCC 神戸総合医療専門学校
〒654-0142 神戸市東灘区友が丘7丁目1番71
TEL.078-795-8000 代 078-795-8100 (入課係)
http://www.kobecc.ac.jp 神戸総合医療

リハビリ訪問看護ステーション部 アスリートサポート部 ソーシャルメディア広報部

Steps
想いをカタチに

予防医療部 ウィメンズヘルス部 ICTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754
〒652-0033 神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

神戸西事務所 TEL 655-0013
神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

こども生涯支援部

活動報告

2020年2月16日(日)兵庫県立こども病院にて「小児整形外科領域における手術と理学療法～麻痺性疾患に対する治療戦略～」をテーマに、兵庫県立こども病院 リハビリテーション科 整形外科医の小林大介先生にご講演していただき51名の方が参加されました。

主に脳性麻痺と二分脊椎を中心とし、脳性麻痺では足部変形、股関節に対してボトックス治療を含めた内容で、二分脊椎では足部変形と股関節、そして脊椎に対する整形外科的治療についてお話いただきました。疾患による変形の特徴など基礎的なところから、手術の必要性や適応かどうかといったところまで、具体的な症例を交えながら手術の方法や手術によるメリット、デメリットなどのお話をしていただきました。

小児の理学療法人間は未経験の方もおられました、参加者からは「普段なかなか聞くことができない医師の考えを直接聞くことができよかった」「ケースよっての術式やリスクなど、実際の症例を挙げての説明はとても分かりやすく参考になった」などの感想を沢山いただき、これからの理学療法につながる内容であったと思われま



こども生涯支援部では2020年度も小児に関する研修会を開催する予定です。詳細が決まりましたら士会だよりまたは県士会ホームページでお知らせいたします。皆さまのご参加を部員一同お待ちしております。

古谷 育子(兵庫あおの病院)

INFORMATION

士会活動の再開について

新型コロナウイルスの猛威により医療従事者は感染の危険性と隣り合わせの業務を余儀なくされています。理学療法士の業務も例外ではなく、運動療法などは紛れもなく密接業務です。このような厳しい状況の中、日々の業務に誠心誠意取り組んでいる会員の皆様に心から敬意を表します。

会員の皆様には、本年9月末まで本会主催の事業の中止または延期をお伝えしておりますが、WEB会議ツール(Zoom 等)を利用した研修会や講習会を9月早ければ8月から再開します。7月頃を目途に研修会等の案内をさせていただきます。会員の皆様には今しばらくお待ちいただくと幸いです。

会長 岩井 信彦(神戸学院大学)

医療・福祉の仕事を通じて誰かの力になりたい。

その夢を叶える学校です。

神戸医療福祉専門学校中央校
 【理学療法士科】 【鍼灸科】 【理学療法士科】
 〒250-0218 神戸市中央区南長狭2丁目1番10号
 [URL] <https://www.knwc.ac.jp>

神戸医療福祉専門学校三田校
 【理学療法士科】 【作業療法士科】 【言語聴覚士科】
 【鍼灸科】 【福祉用具科】
 〒250-0393 三田市福原505-65
 [URL] <https://www.knwc.ac.jp>

姫路医療専門学校
 【作業療法士科】 【言語聴覚士科】 【臨床工学士科】
 【理学療法士科】
 〒262-0267 姫路市宮原2丁目2番1号
 [URL] <https://www.fmc.ac.jp>

誰かに「してもら」から
自分でするへ

介護事業分野

- ・通所介護
- ・訪問看護
- ・訪問介護
- ・居宅介護支援

その他事業

- ・レストラン
- ・高齢者向け賃貸マンション
- ・就労支援
- ・児童発達支援・放課後等デイサービス
- ・アパレル事業

調査・研究室

- ・社会や業界の情勢・動向調査
- ・新規企画・開発
- ・社内外へ啓発活動
- ・セミナー事業
- ・大学共同の研究活動

株式会社スイッチオンサービス
 〒664-0006 兵庫県伊丹市海蔵3丁目16-10
 TEL: 072-772-3235

Switch On service



2020年度 日本理学療法士協会 入会のご案内

特典 1



会員価格で
研修会・講習会
受講可能

特典 2



「理学療法学」
「会報誌」
読み放題

特典 3



福利厚生
「クラブオフ」
余暇も充実

特典 4



理学療法士
賠償責任
保険加入

ご入会手続きはこちらから

<http://www.japanpt.or.jp/about/join/>



2020年度 新人教育プログラム e-ラーニングコンテンツ案内

※兵庫県理学療法士会内でのWEB配信や対面方式の
新人教育プログラム研修の開催については検討中です。
e-ラーニングによる受講を推奨しております。
受講の申し込み方法や注意点については、日本理学療法士協会
Webサイトにてご確認お願い致します。

セミナーID	コンテンツ名	視聴期間
22089	新人教育プログラム ※2020年度に限り全会員対象	必須初期研修(A-1～A-5) 理学療法の基礎(B-1～B-4) 理学療法の専門性(D-1～D-4) 理学療法における人材の育成(E-1～E-3) 合計:16テーマ
受講費	申込期間	視聴期間
¥8,800 ※2020年度入会者は無料 (16テーマ視聴可能)	2020年4月1日(月) ～2021年1月31日(日)	～2021年2月28日(日)

貴所属や周囲の未入会の方にご周知、ご紹介ください。
よろしくお願い申し上げます。

兵庫県で 活躍する 理学療法士

～数珠繋ぎ～

大久保病院
リハビリテーション科
村岡 泰斗 氏



略歴

2013年
神戸総合医療専門学校理学療法学科 卒業
2013年～現在
特定医療法人 誠仁会 大久保病院
2016年～現在
兵庫県トレセントレーナー
2017年～現在
三田学園高等学校 サッカー部
トレーナー

趣味

■ 旅行、サッカー

モットー

■ 継続は力なり

私が所属する大久保病院は地域密着の急性期病院で、回復期・緩和医療・健診事業にも取り組んでおります。整形外科・脳神経外科・内科の患者様のメディカルリハビリを中心に、スポーツ復帰を目標としたアスレティックリハビリまで提供しています。

また、個人としては兵庫県サッカー協会の医科学委員会に所属し、選抜チームのトレーナーや高校サッカー部のトレーナーとして現場活動をしています。

そして、現在は運動器エコーを活用した理学療法に力を入れています。今までは、体表からしか感じることはできなかった患者様の病態を『可視化』できるツールとして非常に有用であると思っています。今後は、運動器エコーを用いて現場活動を行い、トレーナーとして適切な評価や治療を提供したいと思っています。

『兵庫のサッカー選手を世界へ』 私の将来のビジョンは、私が生まれ育った兵庫県からたくさんの選手が世界や日の丸を背負って活躍してもらうことです。そのために、理学療法士として培ってきた知識や技術を、たくさんの選手に還元したいと思っています。理学療法を通じて、大好きなサッカーに携われることに大きな喜びを感じています。次は、(株)Steps アスリートサポート部に所属し、PT、AT、スポーツ指導者として様々な視点より患者様、選手と向き合う丹後孝一先生を紹介します。

表紙写真

神戸市立医療センター中央市民病院、リハビリテーション介入の様子。『COVIDリハチーム』メンバー。左より中嶋瑠奈先生、山田莞爾先生、岩田健太郎先生、下雅意崇亨先生、西原浩真先生、稲垣優太先生、伊藤賢先生。

県士会だより 第185号
発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者／岩井 信彦

編集者／前川 健一郎

ホームページ

<http://hyogo-pt.or.jp/>



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地

〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階

TEL 078-367-7311